

宇佐市院内老人憩いの家及び余温泉指定管理候補者随意選定理由書

当施設は、昭和59年4月に老人の社会参加の促進及び健康増進を図るとともに、若者定住及び地域活性化を促進し、併せて市民福祉の増進に寄与することを目的に開館した。

「温泉」と「老人憩いの家」の複合施設として、地域に長く親しまれ交流拠点として重要な役割を担っている。

開館当初は旧院内町で運営し、平成17年の市町合併後、平成18年10月1日に指定管理者制度が導入されて以来「余谷21世紀委員会」（以下「当会」という）が管理運営を継続し行っている。

当会は、平成12年5月に余谷地域全9集落の農業・観光の振興と地域の活性化を図る目的で地域の担い手を中心となって発足したもので、特産品の開発や販売、交流施設の運営、県内の大学や市外の団体との交流等をとおり、幅広く地域の振興に努めてきた地域に密着した団体である。

当施設でのこれまでの管理運営状況は次のとおりである。

1) 当施設の設置目的に沿った活動を行っている

地域の担い手が結集した当会は、設立当初から当施設との関りが深く、地元住民と協力して清掃奉仕を行うなど地元の高齢者等の社会参加、健康増進に貢献している。

2) 利用者のニーズに迅速な対応ができています

利用者の要望並びに苦情は市が設置している「意見箱」により収集、管理人が日常の利用者の会話からサービス向上のためのニーズの把握に努め、管理人から管理長へ休日夜間を問わず連絡を取る体制を整えており、緊急時の問題に対しても迅速に対処ができています。また、地域の団体が管理を行うことで、地元の高齢者等の健康状態の変化に気づきやすく、入浴の際の安全管理への配慮につながっている。

3) 利用者の増加のため様々な事業展開をしている

近隣で開催される各種イベントにおいて、それぞれの地域の団体と協力し、チラシの配布等を行い相乗効果で温泉の集客につながる事業展開に尽力している。

4) 長年の経験を活かして管理運営ができています

当施設は昭和59年4月に開設し平成5年に温泉棟を新設して以降、施設の補修を繰り返し30年以上が経過している。施設の老朽化とともに、源泉の湯量も当初に比べ減少している。その中で深井戸での源泉掛け流しの方式を維持していくために、温泉設備機器の維持管理のノウハウを蓄積し、常に現場の気温・湯温の観察を行い、ち密な湯量調整の技量によりこれまで不要な休業に至らぬよう適切な施設の維持管理ができています。

以上のことにより、施設管理については平成18年10月1日の指定管理制度導入より5期の指定管理を行った実績もあり、地域や施設に精通のある当会を随意選定による指定管理者としたい。

随意選定団体	所在地	宇佐市院内町上余160番地
	名称	余谷21世紀委員会
	代表者	会長 御堂 了圓